



## 最高の体育祭

平成21年9月20日、新たな“浦島伝説”が生まれました。

体育祭に向けて、体育の時間はもちろんのこと、学年団練習、早朝練習、そして予行演習を見るかぎり、体育祭成功の予感には十分にありました。そして、前日の準備をする様子を見て、予感には確信に変わりました。

開会式での三宅大輔君、秋山紋乃さんの力強い選手宣誓が勢いをつけてくれました。みんなでジャンプでは、足をそろえて、心をそろえて跳ぶ姿は、まさに学級が一つになった光景でした。女子が男子に、男子が女子に送る声援がとても微笑ましく見えました。全員リレーでは、白熱した好レースが展開されました。特に、3年生は手に汗握る大接戦でした。また、1位には届かなかったものの、バトンパスの工夫で予行よりトップとの差を縮めたクラスもありました。学級対抗種目（1年：天使と悪魔、2年：ムカデdeホイホイ、3年：玉入れ）では、先生と生徒が共に汗を流し、声をからして声援を送っていました。綱引きでは、優勝した3年1組の歓喜の雄叫びがグラウンドに響きました。部活動行進では、ユニフォームがより行進を引き立ててくれました。部活動対抗リレーは、真剣勝負の中にパフォーマンスもあり、大いに盛り上がりました。

そして、一番の見せ場は学年団演技です。「21世紀少年」（1・2年男子）は、予行では見せなかった最終演技に大きな拍手が湧き上がりました。各学年ごとに手を振りながら退場する笑顔は、満足感にあふれていました。「スパイシーガール」（1・2年女子）は、激しい動きにもかかわらず楽しそうに踊っている姿が印象的で、手首にしたシュシュがよりダンスを華やかにしてくれました。まさに“優雅な舞”でした。「詫中ソーラン2009総舞黎」（3年）は体育祭の“大トリ”にふさわしい圧巻の演技でした。詫間中学校の顔である3年生の自信と誇りに満ちた姿は頼もしく見えました。会場から湧き上がったアンコールにも見事に応えてくれました。厳しい指導をしてこられた体育科の先生方（高橋利彰先生、材木尚美先生、岩崎洋之先生）も、指揮台の上から生徒たちの姿を見て、「今までで一番いい演技で感動した」と感想を熱く語ってくれました。

閉会式後の後片づけも、それぞれの分担で責任を持ってしっかりとやり遂げてくれました。改めて詫間中学校の生徒たちのすばらしさを実感することができました。蝶が優雅に舞い踊った最高の体育祭でした。



<21世紀少年>



<スパイシーガール>



<詫中ソーラン2009総舞黎>

## 「ティーチャーズ」奮闘記

これまで、体育祭のプログラムで、先生方が出場していたのは「ふれ合い綱引き」だけでした。しかし、生徒たちの頑張りに刺激されて、2つのプログラムで生徒たちに勝負を挑むことにしました。

まず、「みんなでジャンプ」は、予行が終わった後で参加することになったため、ぶっつけ本番で臨みました。うまくいけば5回以上跳べるかなと思ってましたが、記録は1回目0回、2回目1回。放送でも「なんとか1回跳べました」と屈辱的なコメントが流れました。練習の大切さと体力の衰えを実感しました。

「学級対抗リレー」は、一人200mを走る体力がないことから、3年生女子と対戦することにしました。1走は50才の安藤教頭先生、2走は最年少24才の岩崎先生、3走はこの日のために放課後練習を積み重ねてきた香川先生、そしてアンカーは棒高跳び元全日本チャンピオンの高橋先生。長縄跳びと綱引きの完敗を払拭すべく、全力で臨みました。結果は、2位以下を大きく引き離しての1位。「大人げない」との声も聞かれましたが、生徒たちに現実の厳しさを教えるためにも手を抜きませんでした。20世紀少年たちにいただいた大きな声援と拍手、ありがとうございました。先生方も頑張りました。